



JA兵庫みらい
 営農経済部 あぐり創生課
 TEL 0790-47-1282
 FAX 0790-47-1674
 2026. 7月号

園芸 【夏定植キャベツの播種・育苗について】

・夏定植キャベツの播種について
 播種は7月の中旬から8月の中旬までに行います。セルトレイに育苗用培土を入れ、たっぷりと水をかけてから播種をし、覆土をかけてからもう一度少量灌水してください。
 播種8時間後の高温は発芽を抑制してしまいます。高温時の作業は夕方に倉庫等で行ってください。苗だしは作業翌日の夕方に行いましょう。

・播種後の水管理について
 灌水はセルトレイ底部から水滴が2~3滴落ちる程度に行ってください。日中は培土が乾きすぎないように注意して行います。また、夜間の水やりは徒長の原因となるので避けてください。

・育苗期間中の病害虫防除について
 播種後10日後にチョウ目害虫の予防やべと病の予防として【グレーシア乳剤】(2000~3000倍、2回以内)と【ダコニール1000】(1000倍、2回以内)を散布しましょう。さらに、害虫発生時の臨機防除として【アフーム乳剤】(1000~2000倍、3回以内)を使用してください。

・定植について
 本葉3~4枚で根鉢が十分に形成されれば定植適期です。日当たりがよく、排水性に優れた圃場に定植しましょう。定植前に【トミー液肥】(300~500倍)を苗に散布することで根の活着を促進できます。定植時の害虫防除として【プリロツソオメガ粒剤】(1g/株)の株元散布を行ってください。健全な苗を育苗し定植を行いましょう。

・加西市キャベツ研究会で加工キャベツの栽培に取り組みませんか？
 加西市キャベツ研究会とは、加西市のキャベツ生産者によって組織された生産部会です。カット野菜や飲食店で使用される加工キャベツの生産と出荷・販売に取り組んでいます。
 加西市キャベツ研究会の会員様には加工キャベツ栽培暦、肥料農薬注文書、加工用に適した品種のキャベツ苗注文書を配布し、定植機械の貸し出しも行っています。また定期的に圃場を巡回し栽培状況を確認しながら営農指導や加工業者との出荷計画の調整を行います。
 加西市キャベツ研究会に入会したいという方、加工キャベツについてもっと詳しく知りたいという方は、加西営農生活センター加西市キャベツ研究会担当者までご連絡ください。小野営農生活センター小野菜部会も会員募集中ですので、下記の担当者までご連絡ください。

連絡先：加西市キャベツ研究会事務局 担当者：岩佐 (080-2458-0260)・佐伯 (080-2458-0256)
 小野菜部会事務局 担当者：牧野 (0794-63-6905)

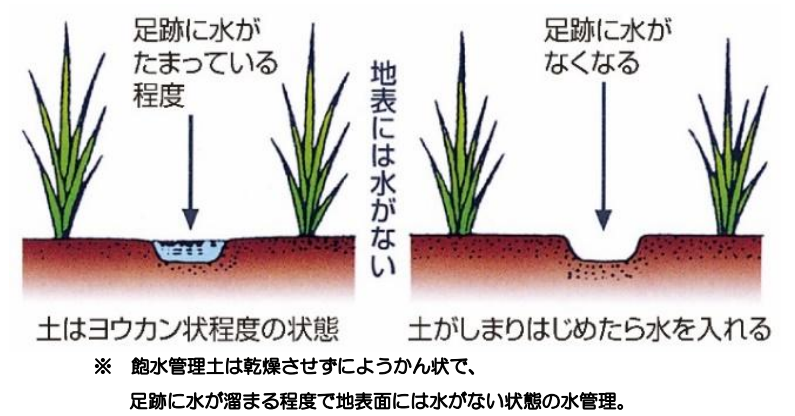
水稲 【中干しと溝切り ~生育後期の水管理に向けての重要な作業~】
 今回は中干しと溝切りについて説明します。それぞれ水稲栽培において、稲の生育を調整し、品質の良いお米を収穫するためには重要な作業となります。

	中干し	溝切り
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>過剰な分けつ（無効分けつ）の発生を抑制する。</u> ・土中への酸素供給と、土中の有害ガスの放出が促され、根の活性が高まる。 ・田面が適度に締まり、計画的に収穫作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速やかな入排水ができる。 ・秋の長雨時には停滞水をスムーズに排水できる。 ・収穫前の遅めの落水や機械収穫の条件づくりができる。 ・開花期や収穫前に乾燥した場合、「走り水」により登熟向上を促す。
開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>収穫時目標穂数の80%の茎数（分けつ）になったら開始する。</u>坪60株植えて1株当たりの目標穂数を23本とすると、中干し開始時の茎数の目標は、株当たり16~18本となります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干し開始後、土壌が少し硬くなったら行う。
方法程度	<ul style="list-style-type: none"> ・田面に小さなひびが入り、足跡が軽くつく程度まで干す。 ・砂質田や作土層が浅い場合は、やや小さいひびが入るまで干す。 ・湿田や作土層が深い場合は、大きなひびが入るまで干す。 ・いもち病発生時の強い中干しは、発生を助長するので要注意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・溝の間隔は8~10条おき、溝の深さは10cm以上を確保する。 ・溝は連結し、溝の末端は確実に排水口（落し口）につなぐ。



乗用型、田植え機装着型の溝切り機

中干し後は、まず走り水を行い、根の発生促進や健全化に努めましょう。
 幼穂形成期以降は、田面を乾かさないうちに間断灌水または飽水管理※を行い水分と酸素の供給を交互に行うことで根をしっかりと育てましょう。また、出穂期前後14日間は、湛水管理を行ってください。



【病害虫に注意!!!】

・水稲も夏野菜も生育が進んできて、病害虫が増える時期になってきました。雨の多いこの時期、水稲では、いもち病が発生しやすくなります。野菜では、灰色カビ病やべと病が発生しやすいです。また、気温が上がってくると、アザミウマ・アブラムシ・アオムシ等の害虫が多く発生しますので防除を行いましょう。

問い合わせ先

加西営農生活センター TEL0790-47-1286	三木営農生活センター TEL0794-82-6150	小野営農生活センター TEL0794-63-6905
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------